

(2) 中北部エリアの対応方針

中北部エリアは、松分布が特に多く、歴史的、文化的価値の高い松や松林が数多くあり、景勝地に多くの観光客が訪れている。しかし、隣接地区からの影響を受けやすく、被害増減を繰り返している経緯から、広域的な対策が難しいエリアである。

地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林及び景観・安全維持に必要な松林、地域のシンボルとなる松林等に絞り込んで、集中防除を行うものとする。

ただし、本エリアの北端付近（④東村（中）地区）と南端付近（⑬恩納（中）地区、⑭嘉手納弾薬庫周辺地区）において、激害状況となっている。北端（東村（中）地区）においては、前述のとおり、最北部エリアへの被害を拡大させないように塩屋－福地間に防除ラインを設定して、被害の封じ込めを行う。

南端付近（⑬恩納（中）地区、⑭嘉手納弾薬庫周辺地区）においては、被害の北上傾向も見られていることから、被害分布の境界に防除ラインを定め、被害拡大を注視して伐倒駆除を行うことにより被害の封じ込めを行うこととする。

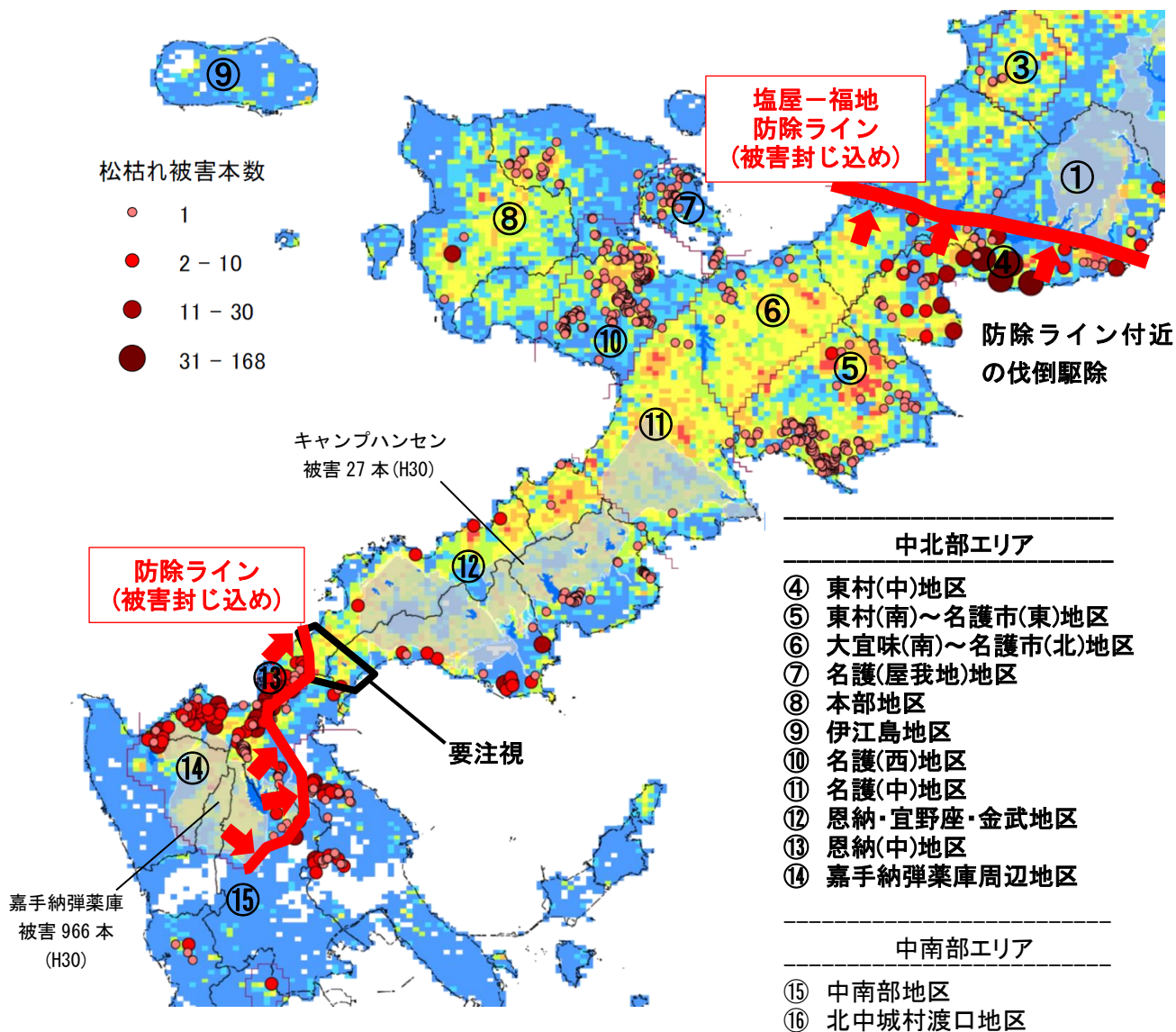


図 3-2-10 中北部エリアにおける主な対応方針

④ 東村（中）地区

リュウキュウマツの推定分布面積が 178.8ha

リュウキュウマツの推定密度：6%

令和元年度の被害状況：3.02 本/ha

高度公益機能森林：無し

地区保全林：32.4ha

○対策方針 「被害封じ込め」

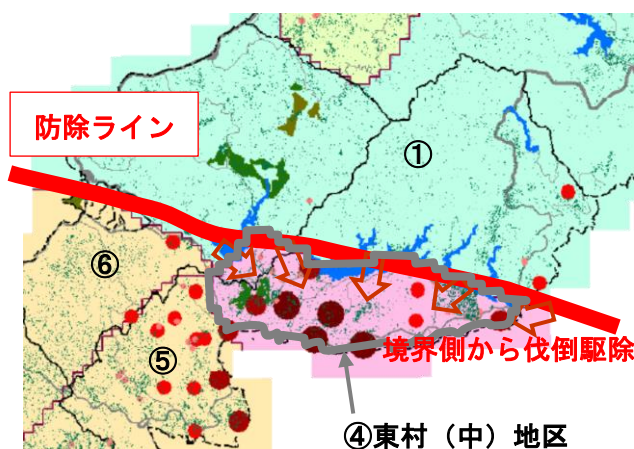
現状で激害状況、名護以北の松くい虫被害の中心地となっており、松林の種類別に対策を実施する。

1. 守るべき松林：全被害木の伐倒駆除を目指す。

2. その他松林：隣接する微害地域に被害が拡散しないように、微害地域との境界側から被害の中心地へ向けて伐倒駆除を実施する。特に、国頭村側（国有林を含む）への北上と大宜味村側への拡大を防ぐ。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。ただし地区北側に米軍基地（北部訓練場）が分布していることから、調査には留意が必要である（巻末の参考 1～2 参照）。



④東村（中）地区
「被害封じ込め」
「全域監視」

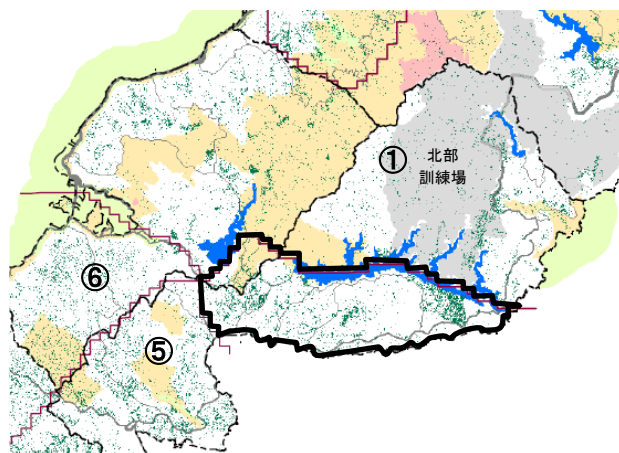
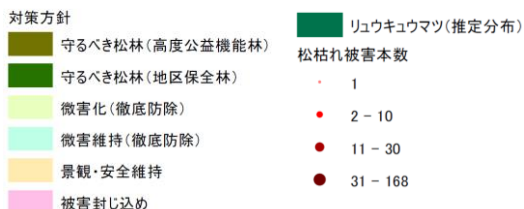


図 3-2-11 対策区分及び監視区分

図 3-2-12 自然公園及び主な米軍基地

⑤ 東村（南）～名護市（東）地区

リュウキュウマツの推定分布面積が 660.6ha

リュウキュウマツの推定密度：7%

令和元年度の被害状況：0.38 本/ha

高度公益機能森林：無し

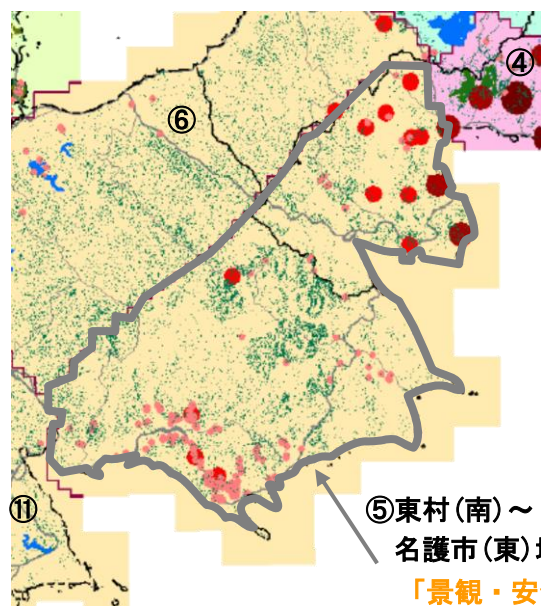
地区保全林：無し

○対策方針 「景観・安全維持」

現状で中害状況であり、地域全体での短期的な微害化が困難である。守るべき松林がないことから、その他松林において「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。また、松林の分布が多く地形的に防除が厳しいことが予想される脊梁部分への被害拡大を防止するために、伐倒駆除を実施する。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。



⑤東村(南)～
名護市(東)地区
「景観・安全維持」
「全域監視」

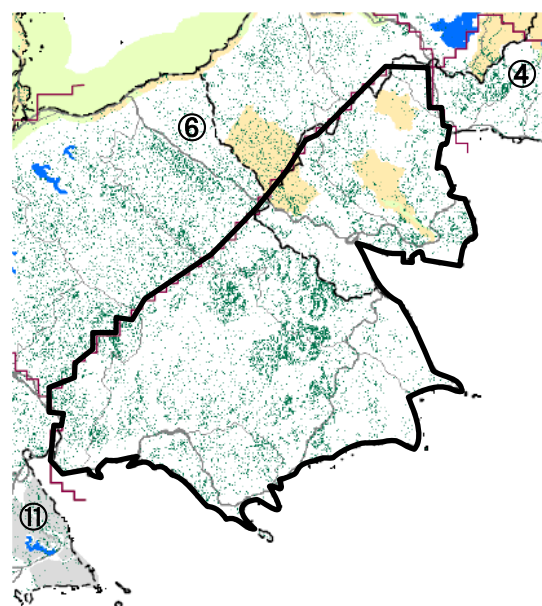
対策方針

- 守るべき松林(高度公益機能林)
- 守るべき松林(地区保全林)
- 微害化(徹底防除)
- 微害維持(徹底防除)
- 景観・安全維持
- 被害封じ込め

リュウキュウマツ(推定分布)

松枯れ被害本数

- 1
- 2 - 10
- 11 - 30
- 31 - 168



地区区分

米軍基地

リュウキュウマツ(推定分布)

自然公園

特別保護地区

特別地域

普通地域

図 3-2-13 対策区分及び監視区分

図 3-2-14 自然公園及び主な米軍基地

⑥ 大宜味（南）～名護市（北）地区

リュウキュウマツの推定分布面積：509.6ha

リュウキュウマツの推定密度：8%

令和元年度の被害状況：0.04本/ha

高度公益機能森林：13.0ha

地区保全林：無し

○対策方針 「景観・安全維持」

現状で中害状況であり、地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林（高度公益機能森林）で集中防除を行う。その他松林においては「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。

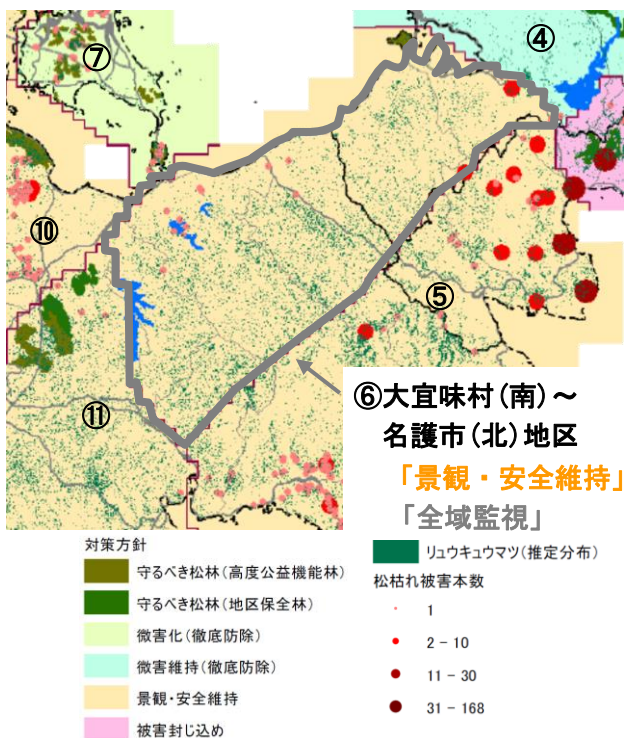


図 3-2-15 対策区分及び監視区分

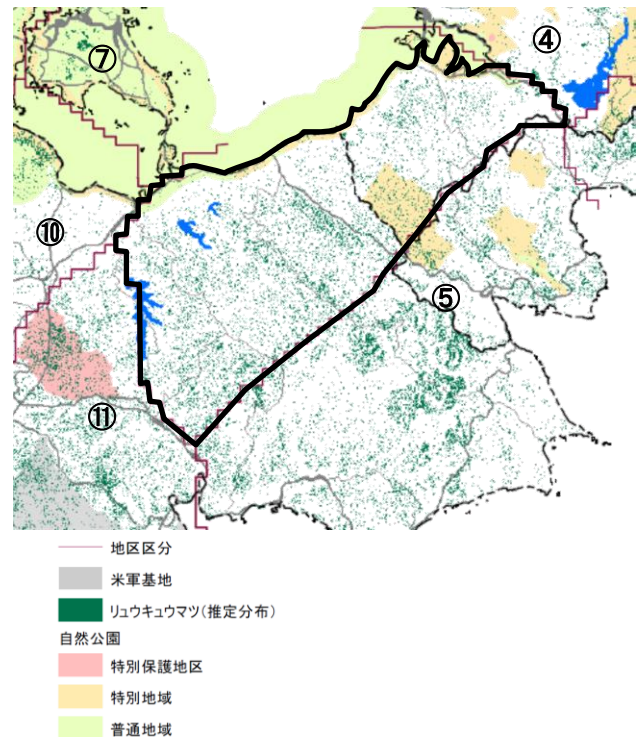


図 3-2-16 自然公園及び主な米軍基地

⑦ 名護（屋我地）地区

リュウキュウマツの推定分布面積：38.2ha

リュウキュウマツの推定密度：2%

令和元年度の被害状況：0.92 本/ha

高度公益機能森林：59.5ha

地区保全林：無し

○対策方針 「微害化」

現状で中害状況であるが、周囲が海で隔てられており、分布的、被害的に隔離されている状況にあることから、「微害化」を目指して、守るべき松林、その他松林の両方で全被害木に対して徹底防除（伐倒駆除）を行う。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。

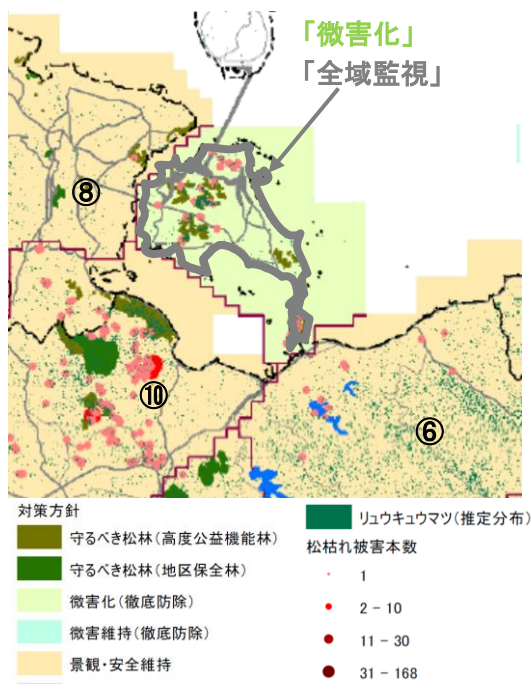


図 3-2-17 対策区分及び監視区分

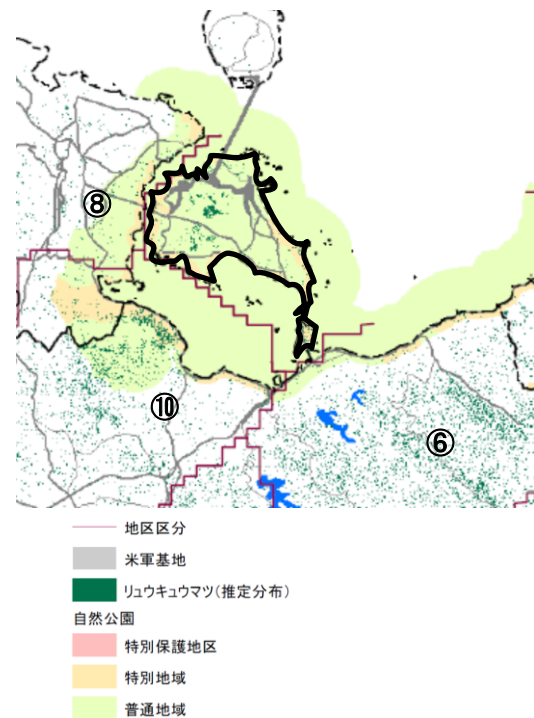


図 3-2-18 自然公園分布

⑧ 本部地区

リュウキュウマツの推定分布面積：434.8ha

リュウキュウマツの推定密度：3%

令和元年度の被害状況：0.09 本/ha

高度公益機能森林：125.7ha

地区保全森林：63.8ha

○対策方針 「景観・安全維持」

現状で中害状況であり、地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林（高度公益機能森林、地区保全森林）で集中防除を行う。その他松林においては「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。

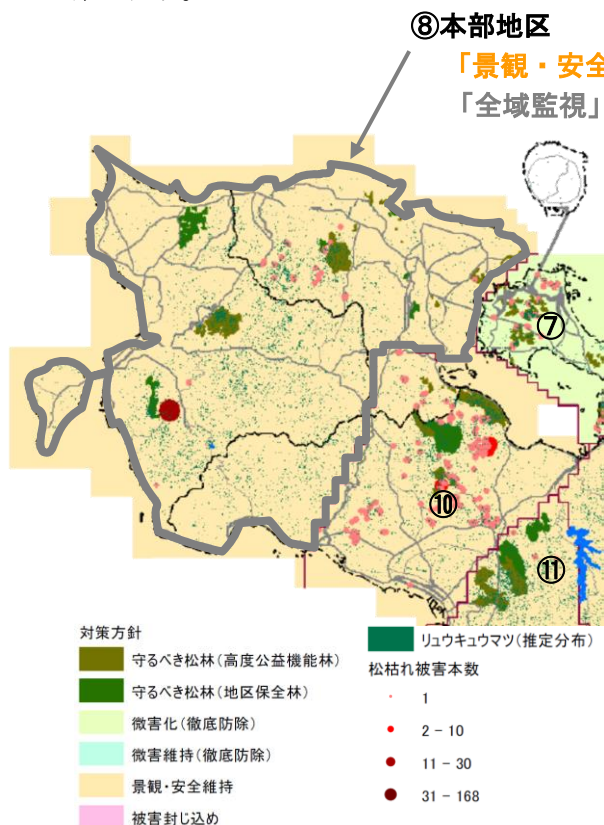


図 3-2-19 対策区分及び監視区分

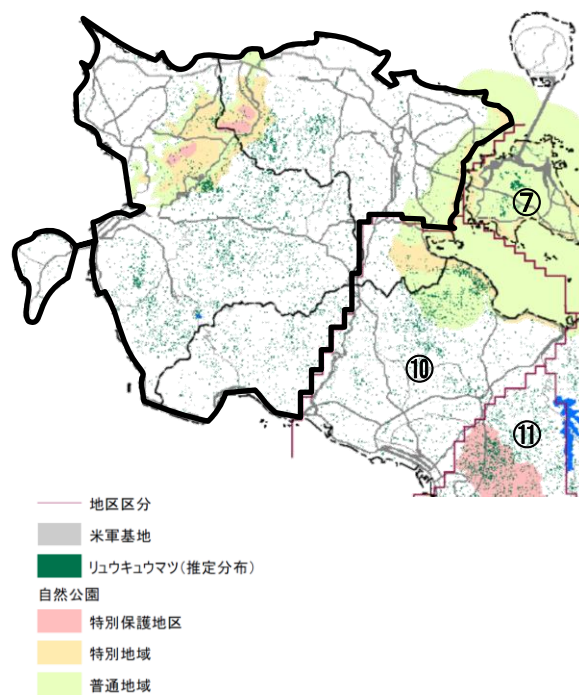


図 3-2-20 自然公園分布

⑨ 伊江島地区

リュウキュウマツの推定分布面積：29.1ha

(周囲を海で隔てられ分布的に隔離)

リュウキュウマツの推定密度：1%

令和元年度の被害状況：0.14本/ha

高度公益機能森林：無し

地区保全林：無し

○対策方針 「微害化」

現状で中害状況であるが、周囲が海で隔てられており、分布的、被害的に隔離されている状況にあることから、「微害化」を目指して、全被害木に対して徹底防除（伐倒駆除）を行う。

○監視方針 「全域監視+サンプル調査」

本地区では平成19年度以降松くい虫の発生が確認されていない微害化が達成されている地域であった。しかし、10年以上経過した平成28年度、令和元年度に再発生しており、突発的な発生かまたは継続的な被害となるかを確認する必要があるため、踏査による「全域監視+サンプル調査」を行う。

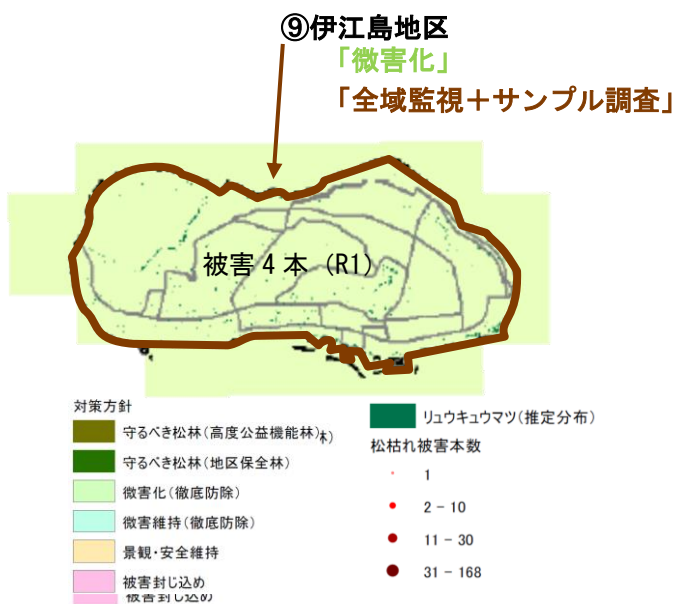


図 3-2-21 対策区分及び監視区分

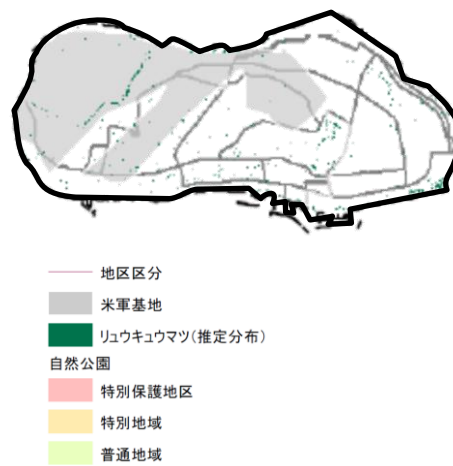


図 3-2-22 自然公園及び主な米軍基地

⑩ 名護（西）地区

リュウキュウマツの推定分布面積：183.1ha

リュウキュウマツの推定密度：4%

令和元年度の被害状況：0.84本/ha

高度公益機能森林：100.2ha

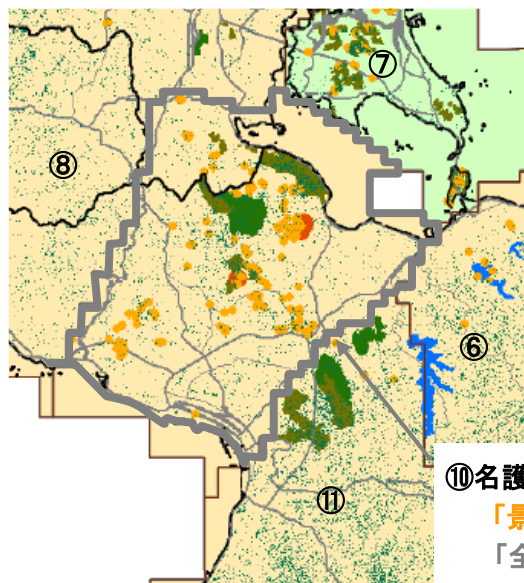
地区保全森林：61.9ha

○対策方針 「景観・安全維持」

現状で中害状況であり、地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林（高度公益機能森林、地区保全森林）で集中防除を行う。その他松林においては「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。



⑩名護（西）地区
「景観・安全維持」
「全域監視」

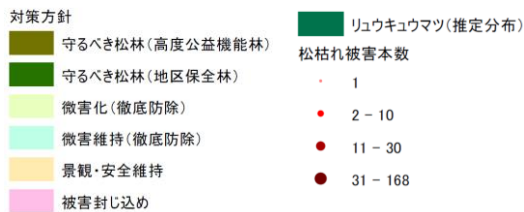


図 3-2-23 対策区分及び監視区分

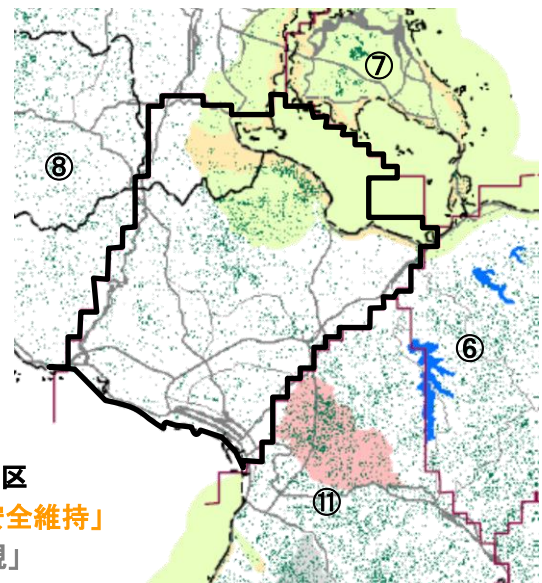


図 3-2-24 自然公園及び主な米軍基地

⑪ 名護（中）地区

リュウキュウマツの推定分布面積：541.9ha

リュウキュウマツの推定密度：8%

平成 30 年度の被害：0.04 本/ha

高度公益機能森林：99.9ha

地区保全林：66.9ha

○対策方針 「景観・安全維持」

現状で中害状況であり、地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林（高度公益機能森林、地区保全森林）で集中防除を行う。その他松林においては「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。ただし本地区の中央～南部、東部に米軍基地（キャンプ・シュワブ）が分布していることから、ドローン調査には留意が必要である（巻末の参考 1～2 参照）。

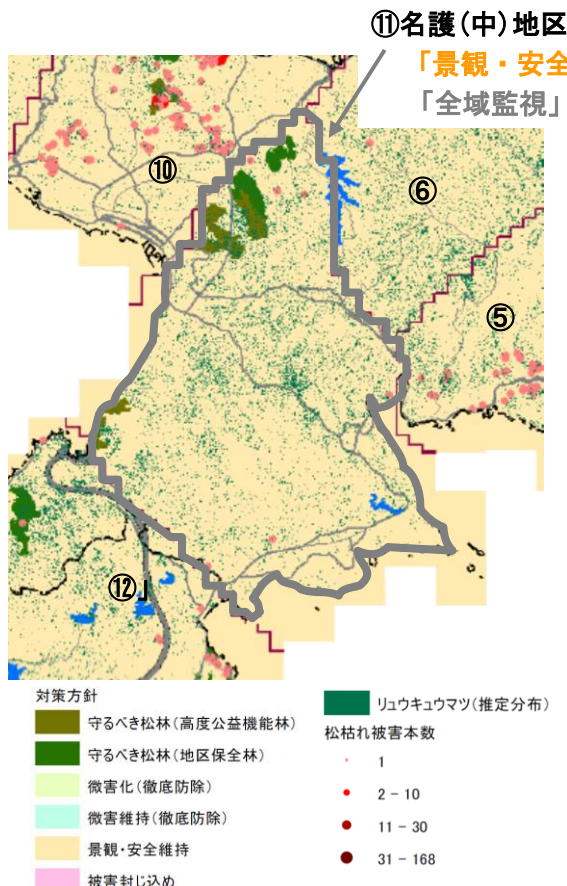


図 3-2-25 対策区分及び監視区分

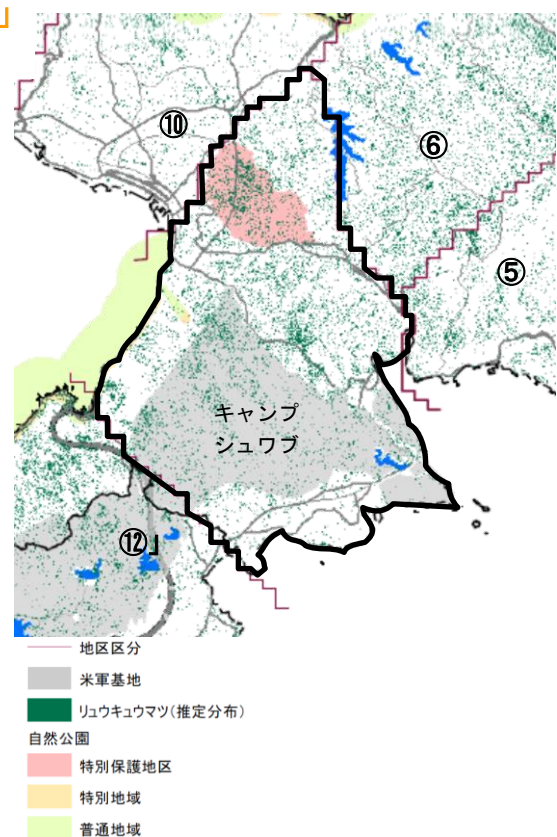


図 3-2-26 自然公園及び主な米軍基地

⑫ 恩納・宜野座・金武地区

リュウキュウマツの推定分布面積：880.3ha

リュウキュウマツの推定密度：5%

平成30年度の被害状況：0.21本/ha

高度公益機能森林：159.4ha

地区保全林：84.8ha

○対策方針 「景観・安全維持」

現状で中害状況であり、地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林（高度公益機能森林、地区保全林）で集中防除を行う。その他松林においては「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

ただし、本地区南側に隣接して激害地状況となっている⑬恩納（中）地区、⑭嘉手納弾薬庫周辺地区の被害が北上しつつある。本地区南側の⑬恩納（中）地区からの被害侵入が確認された場合には、境界部において徹底した伐倒駆除を行う。

なお、地区の中央部分には、米軍基地（キャンプ・ハンセン）が位置し、防除を進める上で防衛省・米軍との情報共有・連携が必要である。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。特に本地区南側の⑬恩納（中）地区との境界部については、侵入状況を注視する必要がある。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。ただし、本地区の中央部に米軍基地（キャンプ・ハンセン）が分布していることから、調査には留意が必要である（巻末の参考1～2参照）。

⑫ 恩納・宜野座・金武地区

「景観・安全維持」

「全域監視」

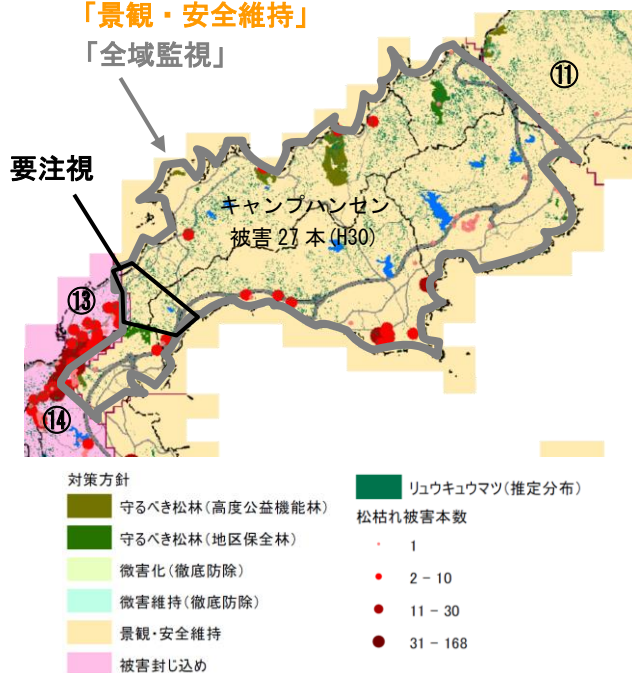


図 3-2-27 対策区分及び監視区分

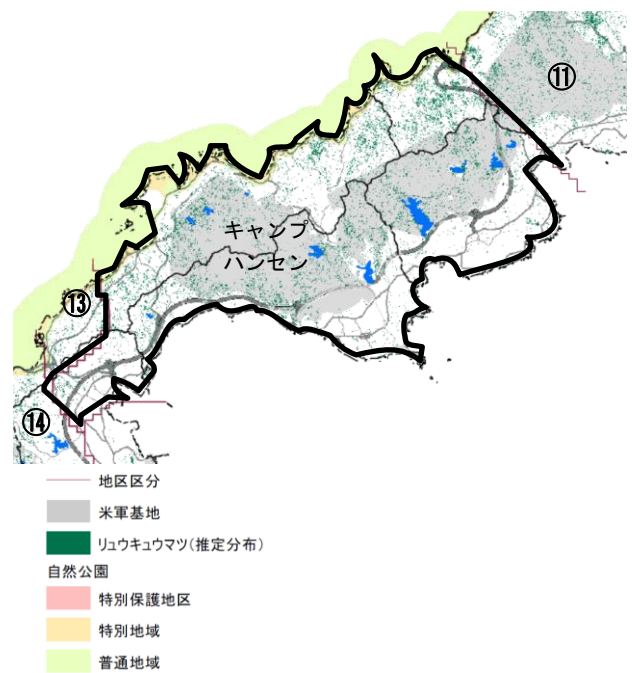


図 3-2-28 自然公園及び主な米軍基地

⑬ 恩納（中）地区

リュウキュウマツの推定分布面積：37.7ha

リュウキュウマツの推定密度：4%

令和元年度の被害状況：3.79本/ha

高度公益機能森林：無し

地区保全林：無し

○対策方針 「被害封じ込め」

現状で激害状況となっており、地域全体での短期的な微害化が困難である。守るべき松林がないことから、その他松林において「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

また、隣接する⑭恩納・宜野座・金武地区への被害拡大が懸念されることから、「被害封じ込め」のために、地区境界側から被害の中心地へ向けて伐倒駆除を実施する。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。

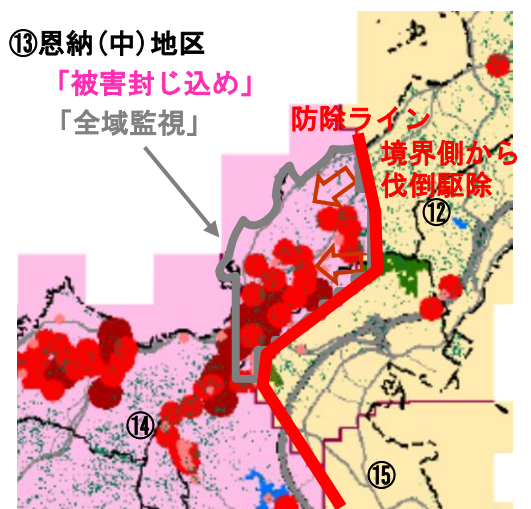


図 3-2-29 対策区分及び監視区分

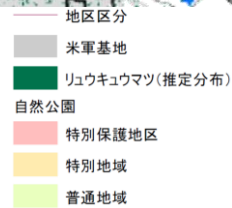
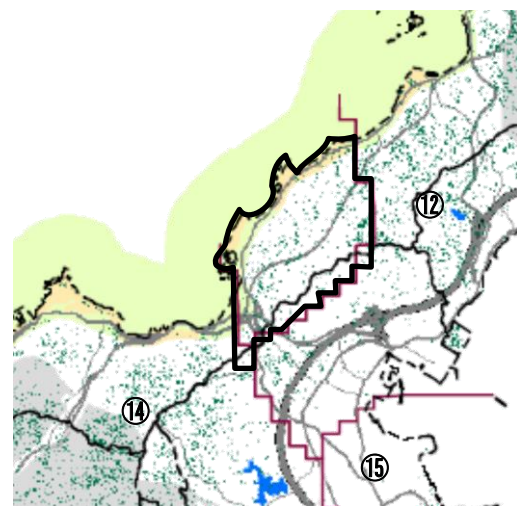


図 3-2-30 自然公園及び主な米軍基地

⑭ 嘉手納弾薬庫周辺地区

リュウキュウマツの推定分布面積：349.7ha

リュウキュウマツの推定密度：6%

平成30年度の被害状況：3.39本/ha

高度公益機能森林：22.2ha

地区保全林：9.7ha

○対策方針 「被害封じ込め」

現状で激害状況となっており、中北部エリア～中南部エリアの被害の中心地であり、地域全体での短期的な微害化が困難である状況から、守るべき松林（高度公益機能森林、地区保全林）で集中防除を行う。その他松林においては「景観・安全維持」対策を中心とした伐倒駆除を実施する。

また、隣接する⑫恩納・宜野座・金武地区、⑮中南部地区への被害拡大が懸念されることから、「被害封じ込め」のために、防除ラインの地区境界側から被害の中心地へ向けて伐倒駆除を実施する。本地区には米軍基地（嘉手納弾薬庫）が位置しており、防除を進める上で防衛省・米軍との情報共有・連携が必要である。

○監視方針 「全域監視」

踏査等による「全域監視」を行う。眺望が困難な地域等では、必要に応じてドローン等を用いた空撮を行う。ただし本地区の中央～南部に米軍基地（嘉手納弾薬庫）が分布していることから、調査には留意が必要である（巻末の参考1～2参照）。

⑭ 嘉手納弾薬庫周辺地区

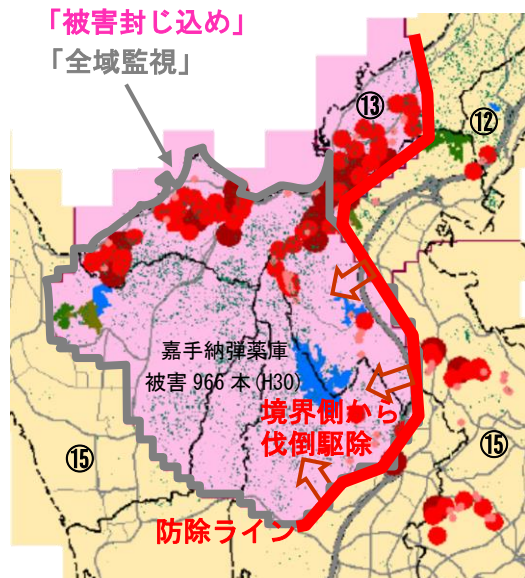


図 3-2-31 対策区分及び監視区分

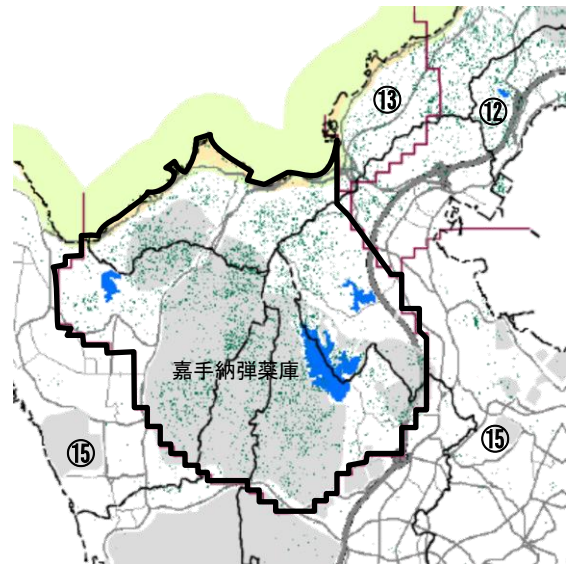


図 3-2-32 自然公園分布